

三漕保育園 園だより

December 2023

木枯らしが吹いて園庭の木々の葉っぱは地面に落ちました。そう、子ども達にとっては落ち葉も大切な遊びの素材。砂で作ったケーキに葉っぱを飾り、粉々にしてふりかけご飯を作ったり、想像を膨らませ遊び込んでいます。また、すみれ組は散歩に出かけた時に「どんぐりや葉っぱを使って何か作りたい」という子ども達の思いを受け、ゆうゆう公園に葉っぱや枝、木の実を探しに行くことに。沢山の秋の自然物で素敵な作品を作ってきたようです。「これはね、お母さん。これはね〇〇ちゃん」など教えてくれました。作品の中に隠れるエピソードを知ると、子ども達の想いに触れ、作品を深く味わえます。

先月末、各クラスのミーティングに参加しました。たんぼぼ組では、お宮にお散歩に出かけた時のエピソード。子ども達にとって、初めてのお宮散策。一面に広がるイチヨウの葉に「わぁ」と目をキラキラさせ、駆け出したそうです。子ども達はイチヨウの葉を踏んで音を楽しんだり拾っては匂いを嗅いでみたりとどんどん遊びに夢中になり、さらに奥の方へ。すると、銀杏(ぎんなん)が沢山落ちていて大人も驚く程匂いがくさい。スタッフはあまりの匂いと、傷んだ銀杏を触ったりしないようにと遠ざけてしまいましたが、その時の子ども達は匂いなんて気にならないほど夢中になって遊び込んでいたようです。大人たちは子どもの大事な学びの時間を奪ってしまったと振り返りました。

大人は子どもにとって良い環境でないと勝手に判断して、その環境を取り除こうとしてしまいがちです。しかし、子どもは様々な環境の中から学ぶことが沢山あります。ただ取り除くのではなく、安全を保障し、その子が遊びを継続できるように見守ることも大切だねと語り合いました。日々の保育を振り返り、次はどうする？と考えることは、自分自身が成長する第1歩。互いに刺激し合いながら保育を楽しんでいきたいなと思います。



さて、先月、歯科検診がありました。うめ組・すみれ組・ゆり組の園児は虫歯が多かったように感じています。乳歯の虫歯は永久歯の形成異常や変色の原因になります。虫歯(未処置)と記入があったご家庭は早めに歯科医院にいかれ治療をお勧めいたします。また、子どもが歯磨きをした後は、磨き残しの多い部分がないか必ず確認し、大人の方が仕上げ磨きをすることが大切です。将来ずっと使う歯を大切に守るためにも、口の中のケアもしっかりしていきましょう。

また、インフルエンザでの欠席が増えてきています。手洗い・うがい・お茶を飲む・乾燥に気をつけるなど自分達ができる感染症予防を行い、元気に過ごしていきましょう。

名頭園 弥生

クラス目標 ~1か月大切にしたいこと~

- たんぼぼ組**
 - ・保育者からの働きかけに反応し、やり取りを楽しむ。
 - ・見る、触れる、探索するなどの身近な環境に自ら関わる。
- もも組**
 - ・色々な感染症に気をつけ、戸外・室内で身体を動かして元気に遊ぶ。
 - ・保育者や友達と言葉のやり取りをしながら、ごっこ遊びを楽しむ。
- ばら組**
 - ・気温の変化を感じながら、戸外遊びや散歩を通して自然に触れることを楽しむ。
 - ・お遊戯会の練習に同じチームの友達と楽しみながら参加する。
- うめ組**
 - ・仲間とひとつのことをやり遂げる達成感や楽しく表現する充実感を味わう。
 - ・友達と遊びを共有しながら簡単なルールのある遊びや表現遊びを楽しみ、戸外に出て体を十分に動かす。
- すみれ組**
 - ・遊びや生活の中で友達と意見を出し合って協力しながら活動する。
 - ・自分の思いを伝えたり相手の意見を聞き入れたりしながら思いを伝え合う大切さを知る。
 - ・友達や保育者と協力し、共通の目的に向かって取り組む楽しさを知り、やり遂げる充実感を味わう。
 - ・遊びや生活の中で相手の気持ちを受け入れながら、自己を発揮する。
- ゆり組**

《12月の行事》

- 4日(月) 衣裳締め切り
- 14日(木) お遊戯会リハーサル
- 15日(金) お遊戯会リハーサル
- 16日(土) お遊戯会
- 18日(月) お弁当の日
- 20日(水) 不審者対応訓練
- 25日(月) お誕生会
- 28日(木) 保育納め

1月4日(木) 保育始め

お遊戯会リハーサルについて

- 14日(木) 通常保育
- 15日(金) 16時までのお迎え

ご協力お願いいたします

【ひとまず産んでみます！】

- たんぼぼ組 中路 さりな先生 (12月15日まで勤務)
- もも組 高田 理沙先生 (12月28日まで勤務)

11月23日、スタッフ5名、神戸へ研修に行ってきました。

スウェーデンのストックホルム大学からイングリッドさんという方をお招きし、「Children's voice and their participation(子どもの声と彼らの参加)～ESDと子どもの人権の観点から～」というテーマでした。研修に行く日までに5人で、スウェーデンの保育観について調べたり学んだりして様々なことを語り合いました。私はこれまで、「子どもの人権」とは、その子らしさを大切にしていけること、私達大人が守ってあげなければならないものと思っていましたが、スウェーデンでは、大人であろうと子どもであろうと一人の人間として参加する、意見を表明する権利として一人ひとりが尊重される権利と位置付けられていることの違いに唖然としました。そんなことを学び、私は神戸に向かいました。

さて、ESD : Education for Sustainable Development【持続可能な開発のための教育】、言葉だけで聞くと耳なじみのない言葉ですが、これから向かえる新しい時代、自分達の住みやすい環境や平和で誰もが一人の人間として生きる素敵な社会を作っていくためにはどうしたら良い？と考えると少し分かりやすく考えられるかもしれません。私達もあまり意識してきた言葉ではありませんでしたが、このゴミはどうなるだろうかと考えたり、ウクライナ情勢など世界の子どものことを知り・平和について考えたり、これまでしてきた保育を振り返ると少しずつ取り入れてきていることなのかと感じました。「次世代を自分達でより良い社会にする」なかなか難しそうなのですが、子ども達も自分のこととして考える力があるということに私自身気づくことができました。

そして、今回、2つの保育園が事例報告をしました。この実践報告を聞いた上でイングリッドさんからの講話が始まりました。事例報告を受け、イングリッドさんが何度も問われていたのは、「子どもの声、考えから始まったの？子どもの視点はどこにあるの？」「子ども達自身が進めている活動なの？」ということでした。その話を聞いた時、私達自身、日々の活動を思い返し、はっとしました。確かに子ども発信・子どもの気づきには目を向け、様々な保育に展開するという保育内容も増えてきています。しかし、子ども達の思いを聞いて保育者が考え、保育の準備をする。活動を進めていく中で子どもがここまで進んだからまた大人が次の用意をする。つまり、私達は、最初は子どもの声を聞いているけど、そこから先は子どもが進めているのではなく、保育者が予測をして活動内容を誘導しているのではないかと気づかされたのです。私達の保育内容は、子ども主体の保育に少しずつ変わり、私達自身も子どもの思いをしっかり汲み取り、保育を展開していくようになりました。ですが、子どもの声を聴くことが十分でなく、まだまだ子どもを一人の人間として捉えきれず、「子どもの権利」をもっと深く考える必要があると感じました。

スウェーデンの保育は、毎日の野外活動が重要で、近く森へ出かけ自然の中で遊びを見つけ学びを深めるといったことが一般的だそうです。その中で「これはなんだろう」と本や図鑑で調べてみたり試してみたり、友達や保育者、家族と一緒に話し合ってみたりと、一人ひとりが自分の考えを持ち、意見を伝え合うことが大切にされているそうです。子どもだからではなく、「あなたならどうしたい？」と子ども一人ひとりに意思や考えがあるのだから、あなたは意見を言う権利が保障されているんだよというように、幼児期の頃から大人は子どもが意見を伝えることができる環境をつくり、その関わりをととても大切にしているのです。なので、小さいながらも自分の思いを伝え、対話するということがごく自然に行われているのです。つまりは、一人ひとりが尊重される「子どもの人権」がしっかり保障されているということがこのことからよくわかります。

子ども達は、一人ひとり違います。自分の思いを言葉として表す子、行動で示す子、表情で表す子。同じことをしていても感じること・興味のほこ先・探求していきたいことそれぞれ異なります。ということは、一人ひとりが新しい視点・私達には思いつかないような視点を持っているのです。だからこそ、「あなたはどう思う？」「どうしたい？」「なぜそう思うの？」と一人ひとりに語り合い、互いに認め合い、尊重し合うことが大切なのだ気づくことができました。このように子ども達と対話を深めていくことで今まで以上に子どもの探求・活動が広がり、子どもの学びがもっと豊かになるということを学ばせていただきました。

これまで私自身、「子どもの人権」ということを深く考えてきたことは少なかったと思います。スウェーデンの保育観について、また、イングリッドさんの講話を聞いて自分自身の子どもの向き合い方を改めて考え直すことができました。これからの時代を生き抜く子ども達に今私達ができることは何があるのか、未来を見据えた保育を展開していかなければならないと感じました。

最後に、私達の印象に残った言葉をお伝えしたいと思います。

- ・幼児期はすべての教育の出発点であり、ESDの出発点です。
- ・幼い子ども達は、既に世界の状況に対する考えを持っています。
- ・幼い子ども達は、興味を持ち、有能で、持続可能性の為の変化を生み出す能力があります。
- ・有能な大人は、持続可能性の文化の担い手として、子ども達の学びと行動のきっかけを作り、足場を掛け、支援する必要があります。

私達は、これからの保育に向き合うにあたり、子どもの学びを支えるために、今まで以上に子どもの声を聴き、対話することを大切にしていきたいと思っています。